



波紋

特定非営利活動法人
教育活動総合サポートセンターだより
「波紋」 第7号
発行人 宮田 進
題字デザイン・山口正勝

発行所 教育活動総合サポートセンター
〒213-0033 川崎市高津区下作延5-11-8
TEL: 044-877-0553 FAX: 044-877-0987
E-mail: support0731@luck.ocn.ne.jp
ホームページ: http://www16.ocn.ne.jp/~snmi/
印刷 西桜印刷株式会社

教育活動総合サポートセンターを設立して7年目を迎えました。設立当初を想起する所員の人員増加、各種機材の充実等、隔世の感があります。

設立7年め 人員の増加、各種機材の充実に隔世の感

NPO法人教育活動総合サポートセンター

理事長 宮田 進

設立に賛同した先生方で定款を協議したこと、懐かしく思います。その定款を忠実にまもって活動を展開して参りました。

本年度は役員改選年度に当たります。先日の臨時総会におきまして理事長に選出されました。

事業の維持、100人を越える活動会員の業務確保、宮ノ下、青少年の家、旭町、大山街道ふるさと館、南野川等の活動箇所に通う子どもへのサポート充実、何よりも安全確保、文部科学省の委託研究等の活動を考えると、その責任の重大さに身が引き締まります。

また、私たちが立ち上げたサポートセンターの存続と体力強化を裏打ちする財政の健全化も永遠の課題であります。

賛助会員の協力を得る必要があります。

初から私たちの活動にあたりたい理解とご支援をいただきました行政関係者、市内教育機関、教育団体の方々には感謝と同時に今後とも支援をよろしくお願ひ申し上げます。



退任のごあいさつ

「話したいこと」の一端ですが、4月に理事長を退任いたしました。6年間、あの時あの場所、この時この場所で出会いました皆様方のご指導・ご支援・ご温情に改めて御礼申し上げます。

ふりかえりますと浅学非才の身でありながら、スタッフの献身的な努力、関係諸機関はじめ多くの皆様のお力に支えられました。出合いの不思議さ、ありがたさを人の情を想いながら感謝することのできるのです。

とくに思い出深いことは、宮田・名取・佐々木氏の呼びかけをもとに30数人の理事・監事が基金を出し合い設立したこと、7月の設立総会・祝賀会が250人余の出席があったこと、この時の光景は脳裡から離れません。2年めの文部科学省の事業委託、生涯学習財団との共同指定管理、以後事業の拡大とともに活動会員の皆様への手当の確保・

初心を忘れないで日々活動する姿・絆を感じた日々でした。これからも楽しみます。未来に向けての課題はあると思いますが、このセンターで「子たちに力を」をモットーに、ともに学びともに生きる場がある喜びを共有しつづけたものです。退任される理事の皆様ごくろうさまでした。「友よ友」

宮田新体制に

大いなる夢を託して

皆様おせわ様になりました。

「10年偉大なり 20年畏るべし 30年歴史なる」

(前理事長 井口 衛)

22年度活動方針・事業計画

「子たちに力を」の法人設立理念に基づき、各事業が効果的、具体的に活動できるよう組織機能の一層の充実を図る。

1 活動方針

①家庭・学校・地域および教育関係機関等との連携を深め、各学校の教育活動の充実発展を支援する。

②ひとり一人の児童生徒がこころ豊かにそして生きる力を身につけられるよう支援する。

③組織力の強化と諸活動の充実、幅広い活動会員の受け入れ先と賛助会員の拡大を図る。

2 事業計画

21年度途中より「川崎区教育支援(こどもサポート旭町)事業がスタートした。すでに活動を開始している「こどもサポート南野川」「中原区教育支援」「高津区教育支援」等と一体的な活動を進め不登校児童生徒の学校復帰を中心に支援活動に取り組む。

(1)学習指導部

①学習指導
不登校児童生徒の学校復帰をはかるため、理事・活動会員の増員に努め、児童生徒の特性を生かした指導の充実を図る。

②日本語指導
海外からの帰国児童、外国人への支援を図る。

③サイエンスキッズ
実験・実習を通して理科学習の楽しさを味わわせる。

④キッズセミナー
生涯学習プラザを会場に「得意

な科目はさらに得意に」「疑問、矛盾を解決する自由研究」等多様な講座を開設し個性伸長を図る。

(2)相談適応部

①相談活動
不登校児童生徒、軽度特別支援児童生徒、反社会的行動傾向のある児童生徒の相談活動を推進する。

②適応指導
ふれあい活動宿泊体験
不登校児童生徒が心を開き軽度特別支援児童生徒が軽快に活動できるように、子どもに活力をつけたい。

・体験活動
鎌倉遠足、修学旅行を再現したり各種体験をさせたい。

③特別支援
定款に新設された支援事業を充実させていく。特別支援教室の担任経験者、指導主事経験者、行政で対応した経験者の充足を図る。

④学校との連携

児童生徒のNPOでの学習、生活状況の変容等の様子を学校に連絡し、学校との連携を深める。

(3)事業部

①青少年の家・管理運営事業
自主事業の充実・発展に努め、地域・家庭・学校との連携を図る。

②教育会館・管理運営事業
会館の管理と共に、教職員が多様なニーズに応える相談事業の充実を図る。

③ 大山街道ふるさと館・管理運営事業
館の管理運営と地域の歴史、民俗資料の展示活動、文化活動、講演活動に職員のノウハウを活用し、市民の幅広い参加を図る。

④ こどもサポート南野川・管理指導事業
不登校児童、軽度特別支援児童生徒、反社会的傾向児童生徒の学習支援を図る。

⑤ こどもサポート旭町・管理指導事業
不登校児童、軽度特別支援児童生徒、反社会的傾向児童生徒の学習支援を図る。

⑥ 輝け☆明日の先生の会事業
教員を目指す大学生等が対象。教育に関する様々な課題を具体例を通して学ぶ。年間2回、ゼミナール6回を予定。

⑦ 新しい学校づくり☆川崎塾
今日的な教育課題を幅広い立場から探り、これからの学校現場のあり方を考える。

⑧ サポーター配置事業
特別支援、学習支援に年間を通して、学生等を配置する。

⑨ 文化講演会
教職員、PTA、市民向けに文化向上を図る講演会を企画開催する。

⑩ 各区から受託した事業
昨年度より川崎区、中原区、高津区、宮前区から、子育てに関する事業を受託している。各区民の期待に添うよう、また、各種の問題や課題の未然解決が図れるよう、それぞれの区と綿密な連絡を取りながら事業に推進にあたる。

問題行動等への対応におけるNPO等の活用に関する実践研究事業中間報告会

文部科学省委託研究「問題行動等への対応におけるNPO等の活用に関する実践研究事業」の報告会を22年3月26日(金)、教育会館で行ったところである。今回の報告は、17年度に委託を受けた「不登校等への対応における」の4年間にわたる研究を不登校だけでなく、子どもたちの問題行動を含め全ての不適応を起している23事例をまとめたものである。

文部科学省委託事業



新しい学校づくり☆川崎塾

中堅教員を対象とした事業で、今年で4年めになります。今年度は、対象を若手の方々にも広げたいと考えております。講師には、前校長、現職教員、行政職民間の方々をお願いしました。その道のエキスパートの方々のご講話を伺い、協議会によってお互いに意見を交換し、考えを深めてほしいと思います。

「輝け明日の先生の会」開設

総合教育センターの委託で始められたこの会も5年目を迎えました。川崎市の教員を目指している臨任・非常勤・社会人・学生等の11人が受講し、活気ある講座やゼミが進められました。4月からこの会出身者が教壇に立ちました。子ども・保護者に信頼され笑顔で活躍することを願っています。

小学校部会

3年間、1泊2日の「ふれあい活動」に参加した児童。初回のころは泣く場面も多くほとんど単独行動で過ごした。不安定な状態にあった。だが時間の経過の中で集団活動の楽しさを実感、作文にも記述していた。母親は大変感動をした。



全体会、分科会、全体会の順に行なわれ、はじめの全体会では研究の報告を、その後の分科会(小・中部会に分かれて研究討議)そしてまた、全体会で各分科会の内容を報告、質疑応答の後、帝京大教授岡田守弘先生の指導講評で幕を閉じた。参加者は小中学校の現職の先生を含めて180余人であった。

サポーター配置事業

サポーター配置事業も6年を迎えている。サポーターは、教育と特別支援の2種類があり、小・中学校とも、特別支援が圧倒的に多い。このため、昨年度は、毎月、教・特合わせ、延べ250校。430人のサポーターを配置して来た。サポーターには、学生、教員OB、地域人材の方々が登録しており、学生が大半を占めている。本年度は、事業受託先が、教育は、市教育委員会、特別は区役所子ども支援室となっている。これまでの実績を踏まえる。さらにこの事業の充実を図りたい。担当理事(小・梁部、鈴木(川田)中・對馬、渡邊、佐藤)

中学校部会

問題行動等のパターン別まとめとして、「イライラ感から解放されないH男の居場所」という事例が報告された。これは、サポーターがH男についてまわるイライラ感からの解放の場の一つになっ

川崎市青少年の家 指定管理受託

○エコチャレンジクラブ
地球の未来を考える力をつけていくため様々なエコ体験学習を重ねています。
○よちよち歩きの子あつまれ
柿もぎ、イモ焼きなどをしながら親子の深いふれあいを求めて取り組んでいます。
○シニア卓球
若き健康親睦が目標です。



説に基づき、H男のさまざまな姿、変容過程について報告がなされた。

協議の中で、アンガーマネジメント(イライラ感や怒りの克服)の発達段階に応じたプログラムの作成、学校復帰のきっかけ、子ども達は個に合った安心して学習できる居場所を求めているのではないか、子育ての中のネットワークの生かし方、等が話し合われた。



学ぶ喜び 楽しむ ふれあいの活動

ふれあいの活動へ参加して

僕は、今年のふれあいの活動に、全部参加しました。
最初は、緊張して話すことすらできずにいました。でも少しずつ慣れてきてやつと話すことができました。友達もできて、夜とかにこつそりぬけて青少年の家を見まわりました。

2回めからは弟も参加しました。けれど僕より早く慣れてすぐに友だちもできるようになりました。
3回めは、1・2回めより早くねてしまったためよく覚えてません。

4回めは、2日めの焼きいもを食べたのが印象的でした。こげたところは、いもの皮とまがい、こげた新聞を食べました。とてもがくすぐに捨てました。

5回めは、小さい頃からの友だちも参加しました。また、5回ともふれあいの活動はいつもより多くの新人や先生がはいました。とても楽しかったです。

(小6・M・T)

勉強が好きになってきた

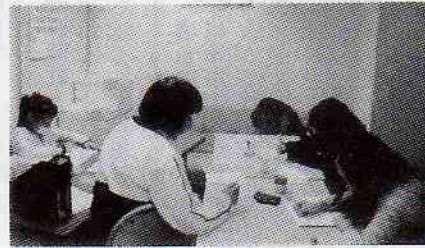
私はサポートセンターに、2年前から来ています。

前は、国語・算数を勉強していましたが、もうすぐ卒業なので、今は英語・数学です。

数学は、たまにわからないところが出てきます。でも、先生にわかりやすく説明してもらってとてもうれしです。

英語は、日本とのちがいや、ア

ルフアベットなどをやっています。すごく楽しくできる教科です。このサポートセンターに来て、少し変わったことがあります。その一つは、勉強が好きになってきたことです。



二つめは、テストの平均点がすごく上がったことです。先生は、テストの問題を、何度かくり返してやってみるの、テストの点数が上がりまし

最後に

娘へ伝えたい 感謝の気持ち、思いやりのある人に

私は中3の一人娘の父です。妻より代筆を頼まれたのですが、文章の多くは何故母親が書くのですか？ただでさえ子育てに疎遠になりやすい父親です。この機会に思うことを書かせていただきます。

娘は中1の冬に不登校になりました。一日中、顔を合わす妻と娘は衝突を繰り返す家庭内はいつも険悪な雰囲気でした。そんな中、

私はサポートセンターに楽しくこれるってことが、一番のサポートセンターに、感謝しているところ

(小6・S・K)

中学校の数学を楽しみながら

ぼくは、サポートセンターに通い始めて、もうすぐ2年になりました。

この2年で楽しかったことは算数です。

算数では、むずかしい問題がたくさん出たけれど、問題をといいた時や、答えがわかった時、こういう答えなんだと思います。とけてうれしと思えるので楽しいです。

また、わからなくても、先生に教えてもらったりして、わかるとすつきりします。なので、サポートセンターで勉強していて、すごく楽しいです。

今は、中学の数学の勉強をしています。xを使ったり、プラス、マイナスの計算をしたり、むずかしいけれど楽しいです。

(小6・Y・K)

支え押し上げる人をめざして

私は、中学校の時にいじめられて不登校になりました。その時は誰も憎くて信じられず家族にあたりたりしてしまいました。そんな生活をして1年くらいで私は入院することになり、その時は「寂しくない、私は一人で平気だ」と思っていました。入院してみると友達もできたし楽しかったけれどどこか寂しくて仕方がありません。その時「私は家族の事が本当に大好きだった」と気づきました。今までは「一人で生きていける」と思っていたけど「本当は人間は一人じゃ生きていけない、人が変わるには誰かが支えて、背中を押してあげなくてはならない」と思いました。退院してサポートセンターに通うようになり、先生方いろいろな事を教わりました。家族、友だち、先生、たくさんの人たちに出会って、支えてもらい、背中を押してもらいました。だから、今

登校時の辛さは本人しかわからないものです。これをバネに思いやりのある人間になってほしい。最後に一度しかない高校生活を勉強だけではなく、精一杯楽しく謳歌してほしいと思います。少々厳しい母といつもうざい父ですが、私たちはいつでも君を応援しています。

(中3父・K・K)



いと思っています。

(中3・R・T)

感謝の気持ちをこめて

私はサポートセンターで、数学と英語と国語を勉強しています。私は英語が一番苦手な教科でしたが、サポートセンターでは、自分の苦手なところを優しく、わかりやすく教えてもらえます。そのおかげで、苦手だった英語を勉強するのが楽しくなりました。数学と国語は、いつも先生がプリントを用意してくれて、そのプリントを使ってわかりやすく勉強を教えてくださいました。テスト前には、テスト対策として、テスト範囲の勉強も教えてもらいました。

高校受験の時も先生方に、励ましてもらって自信ができました。そのおかげで、推薦入試で合格することができました。先生方には本当に感謝しています。ありがとうございました。

(中3・M・M)

教育相談活動にあたって

開設7年めを迎え、皆様のご要望に添えるように相談担当一同努力を重ねています。

市民、学校および関係機関の方々のご理解、ご協力をいただき、平成21年度の当サポートセンターに、来所された相談件数は、186件と前年より42件増加しました。

相談内容は、学習が思うように進まない、学校に行きたいが授業が分からないので行き渋っている、学校に行つてないので学習が遅れてしまったなど、主に学習不振、不登校、特別支援教育に関することが多く、子どもや保護者一人ひとりが、いろいろな思いを持って相談に来所されます。

このような学習関係についての相談では、担当者が一対一で、子どもが持つている勉強をしたいという気持ちを受けとめ、本人が求めるところから、本人の想いを大切にかかわり、やがて、学習活動を進めていきます。

この個別学習活動の展開から、子どもは自分でできたという達成感、満足感が学習意欲が高まり、自分に対する自信を持つようになり、その生活全体に行動が意欲的になってきます。当サポートセンターでは、一人ひとりの子どもに、応じた個別カリキュラムにもとづいてきめ細かな学習支援を行っています。

この春は、24人が高校等に合格晴れ晴れとした表情で合格の喜びを伝えてくれました。

(副理事長・片山世紀雄)

「こどもサポート南野川」の受託

継承発展

開設わずか1年で、子どもを受け入れる環境がすっかり整えられ、創設期の不登校支援へのあつい思いと努力が名実ともに実を結んでいます。

昨年度の来所者は10人。その全員が学校に登校するようになり、中には登校が不完全な子どももいます。指導者も、完全登校したあと、指導者を募って通所して来る子どもを育てています。また、高校進学を果した2人も働きながら学ぶ自立の道を歩み始めました。目覚ましい成果といえます。

2年めは継承発展期です。スタッフ一同、子どもに寄り添って進めてまいりたいです。

大山街道ふるさと館

さらに魅力ある施設に川崎市生涯学習財団と連携をとりながら展示作業と文化事業の充実に向けて2年めの年になります。とくに、強度の理解を深める「街道学習講座」や「郷土発見・見学講座」や郷土愛を育むことをねらいに新たに発足した「子ども大山探検クラブ」は、順調に軌道にのり、ふるさと館の目玉事業になりつつあります。

来年度、溝口大山講は100周年を迎える年にあたります。それにちなんだ文化講演会の企画など、さらに魅力ある施設になるようスタッフ一同取り組んでおります。

今年度も昨年同様お力添えをお願いいたします。

改めて見取る力を!

不登校等の問題をかかえている子どもたちは、自尊心が低く自分に自信がないうえに、人間関係づくりが苦手です。

ある中1の子は「怪我や病気で長く休んだ。登校した時何かいわれた。行けなくなった。」といい、「行きたいけど...不安だし、友だちもいないし...」といいました。

私は、子どもにかかわる大人たちに、「見取りの力」が弱くなっているのではないかと危惧しています。

子どもの変化は、何気ないちよつとした表情や言葉遣い等に現われます。それを見逃さない感性と強い問

さらなる

発展を願って

多くの活動会員と賛助会員の皆様のあたたかいご協力とご支援をいただき、「サポートセンター」の活動も7年めを迎えることができました。

学校に足が向かない不登校の子どもたちに、学習支援を中心に活動して、その事例研究を重ねてきました。その結果として平成22年度も文部科学省の「実践研究事業」の委託が決定しました。今後は学校復帰した多くの事例をもとに研究を積みあげて、推進していきたいと考えております。

平成21年度は多くの方々の協力



(事務局長 佐藤剛)

題意識を持って子どもたちを見守る。そのことが大切だと思います。サポートセンターに来られる子どもは幸せです。彼等にとつて、何でも話せる。自分に合った学習ができる。「一期一会」の場と思うからです。

(理事・片山鶴子)

コミュニケーション

手段としての英語を

遠い海の向こうに自分達と同じ中学生がいる。友達と遊んだり、漫画を読んだり、悩んだり...。国籍、言語、文化は違うけど、もう一人の自分とも言える仲間が、

のものと、25の事業を運営し活動してきました。今年度は宮田新理事長を中心とし新体制で出発をしております。

6年間積み上げてきた経験と実績を大切にしながら、新しい発想のもと相互の連携と協力により、子どもたちの健全な成長を願っています。今年度もご支援で協力をお願いいたします。

この活動の中に昨年途中から川崎区の「こどもサポートステーション旭町」の事業を含め、さらなる発展を目指している。

(事務局長 佐藤剛)



海の向こうにいる。コミュニケーション手段の一つとなる英語。英語によって広がる世界を知ってもらいたい。そんな思いを持って生徒と接してきました。自らの外国体験談や文化等に関する情報を集めて、授業におり交せています。「英語で会話をしたい」「外国に行つてみたい」そんな海の向こうに思いを馳せる気持ちが芽生え、膨らんでいくような授業を目指し、接してまいります。

(サポーターN・M)

◇「万葉集」の中に「桜花にほへ乙女」「桜花さかえ乙女」と詠まれている歌には、輝くようなサクらの美しさが匂ってくるようだ。今年の春は寒暖の差が激しい中にあつて、美しい桜花を私たちに楽しませてくれながら、桜前線は北上していった。

◇サポートセンターも春とともに役員・理事・監事が新しい体制となり、活動会員も140人を越え、学校配置の大学生等も400人をはるかに超した。

◇NPOの活動は25事業で働く職員(退職教職員)の善意と協力で成立している。